

あそびっくす通信

あそびっくす通信 2013-1号(17号)
発行：2014年3月31日
あそびっくす in 東小実行委員会
名張市桔梗が丘 7-1-86
名張市立桔梗が丘東小学校内
編集・発行責任：坂本直司

■ 震災メダカは元気です！

7月6日(土)1学期週末課外授業を「震災メダカは元気です！」と題して、阪神淡路大震災(1995年)でガレキの下に取り残されたメダカの子孫を大切に飼育されている8番町の鈴木さんを講師に招き、メダカの観察会を開催しました。

(参加児童32名、保護者11名)

《驚きその①》 講師のお話で驚いたのは、ペットボトル1本の中で水草と不純物を除去してくれる貝(物洗い貝)さえあれば、1年間水を替えなくても餌を与えるだけでメダカが生き続けることです。これはすごい生命力だと思います。



《驚きその②》 次に驚いたのは子どもたちが描いたスケッチです。ペットボトル全体を描いた子、メダカ一匹をクローズアップして描いた子など様々です。大人であれば、ほとんどの人はペットボトル、水草、貝を見た通り描くでしょうが、子どもたちの視点は違います。全体を見ている子がいるかと思えば、メダカの顔、ヒレ、ウロコなど詳細に観察している子がいます。このように子どもたちには色々な視点を持ち続けてほしいものです。大人の視点を押し付けてはいけません。



《驚きその③》 初めてメダカの卵を観察しましたが、心臓がバクバクと動いていました。顕微鏡でないと見えない大きさなのに、とても力強く規則正しい拍動を続け、その生命力に再びビックリ。卵の直径が1ミリくらいですから心臓は0.05ミリくらいの大ささしかないと思います。



阪神淡路大震災では多くの人の命が奪われたことは知られていますが、同時に動物たちも少なからず犠牲になっていたことを知りました。今回、その命を救うために立ち上がった鈴木さんの思いと行動に敬意を表し、それを子どもたちに伝えて下さったことに感謝いたします。子どもたちは、この日持帰ったメダカの世話を通じて、これからも命の大切さと人の心の優しさを学び続けることでしょう。



元気に泳ぐメダカたち



最後に数匹ずつ分配

■ 通学路花いっぱい・いっぱい運動

6月22日(土)午後、恒例となった「通学路花いっぱい・いっぱい運動」を開催し、マリーゴールド、サルビアなど約2,000株の苗を地域の皆さんに無料配布しました。「通学路で、花に水をやりながら子ども達を見守ってください」という趣旨を集まっていた約200名の皆さんに説明し、配布の後は7基の通学路プランターの植替えを行い、バス通り沿いの花壇も地域の皆さんに植え替えていただきました。



苗床からポットへの植替え作業(5/26)



8番町バス通り花壇

また当日皆さんから20,554円(昨年18,606円)のご寄付をいただきありがとうございました。来年度事業に有意義に使わせていただきます。また、PTAバザーへの寄贈品も数多く寄せていただき合わせてお礼申し上げます。



植替え後の通学路プランターと趣旨説明する委員長



■ 恒例サマーキャンプ

8月10日(土)午後、28名の児童と7名の保護者の参加を得て、おなじみとなったサマーキャンプを実施しました。内容はいつものように飯ごう炊爨とカレー作りですが、今年は、料理の下ごしらえを家庭科室で行ない、カマドを作って飯ごう炊爨とカレーの煮炊きはいつも通り中庭で実施しました。アトラクションは、昨年出来なかった燻製(チーズとかまぼこ)の実演とキャンプ道具のひとつであるガソリン燃



料のランタンとバーナーの実演でした。最近家庭でキャンプに連れて行ってもらう子どもたちが少ないようで、これには皆興味津々でした。



マキ割りは慎重に



燻製の実演

● 炭は黒くても熱いのです！

今回は、残念ながら炭と火バサミでごく軽微な火傷をした子が何人かいました。すぐに冷 водой冷やし続けたので大事には至りませんでした。キャンプの途中、児童全員を集めて黒い炭でも熱いこと、火バサミの先は熱いことを教えました。また、迎えに来てくれた保護者の皆さんにもお話ししました。



みんなでカレー作り



おなじみの大鍋

黒くなくても燃えている火の中にあつた炭は熱いのが当たり前と大人なら分かりますが、子どもたちにとってそれは当たり前ではありませんでした。なぜなら、炎の出ているものが熱いというのは、感覚的に彼らも分かります。しかし、炎が出ていなくても黒くなってしまった炭が熱いのかどうか。それは経験したことがないので分かりません。火バサミにしても手元は全然熱くないですから、先も熱くないだろうと思います。ところが、さっきまで火に触っていますから、先端が熱くなっています。子どもたちはそれを経験として持ち合わせていなかったのです。ですから熱いということが分からず火傷してしまいました。



子どもたちに火の危険性を説明

私たちは、そのときすぐに児童全員を集めて危険なことを説明しました。この「すぐに」というのが大事で、どこまでが安全で、どこからが危険か、人としてのセンサーをこのような経験を通じて磨いていこうという話をしました。

また、子どもたちを迎えに来てくれた保護者の皆さんにも、「危険だからといって包丁や火など、生きていく上で必要なものを遠ざけてはいけません。そうするとその子が学ぶ機会を失ってしまいます。子どものときに小さなけが、小さな失敗をしておかないと大人になってから大けがをします。大きなやけどをします。ですから、子どものときにこういう経験を家庭でもしっかりと教え経験させることが、親の務め、責務では



保護者へのお願い

ないか。」というお話をさせてもらいました。

私たちは、子どもたちに対して「君たちの未来には、成功と学習しかない」と言っています。失敗というのは、ひとつのことを学べる学習の機会であつて、本当の失敗ではありません。



大人でもキャンプは楽しいのです。食事中のスタッフの皆さん

■ 間伐材プランター作り

10月26日(土) 児童10名、保護者6名の参加で2学期週末課外授業「間伐材プランター作り」が行われました。

これは、地域ビジョンプロジェクト事業のひとつである「子どもたちと地域の絆づくり事業」の一環として桔梗が丘小、桔梗が丘南小と同日に開催しました。通学路花いっぱい運動のために、3つの小学校で30基の間伐材利用プランターを大人と子どもが力を合わせて製作しました。釘打ちなど初めてという児童もいましたが、講師の細川さん(4番町)に教えてもらって何本か打っているうちに出来るようになりました。このように大人が機会を与えてさえやれば子どもたちはすぐに体で覚えます。またひとつ子どもたちの経験値が上がった一日でした。



最後はそうじで終わります



プランターと一緒に参加者全員で

■ あそびっくす in 東小 2013

11月16日(土) 今年は今午中が授業となった関係で、午前は地域の皆さん対象に4つの体験講座、午後は地域の皆さんと児童対象に8つの講座を開設しました。そのため、参加人数に偏りがありましたが、のべ167名の参加を得て、いずれの講座でも子どもたちと大人が手先を動かして体験にチャレンジしていました。



まずは切り絵教室の作品から・・・

今年の干支である午(馬)をきれいに切り抜くことができました。

馬の文字部分が旅行のパンフレットだとは面白い発想です。



お菓子作り今年のメニューは「桜もち」と「さつまいもの蒸しパン」でした。参加した児童たちは熱心に先生の説明を聞いた後、班ごとにお菓子作りに取組み、最後はみんなでおいしくいただきました。

陶器作りでは、毎年ユニークな作品が生まれます。秦先生の的確なアドバイスのおかげです。



はがき絵ではクリスマスカードや年賀状に取組みましたが、自分の絵心を再発見する大人の方が多いようです。



今年は、地域ビジョンである「子どもたちと地域の絆づくり事業」の一環として、桔梗が丘小学校、桔梗が丘南小学校と合同で「通学路花いっぱい運動」を行いました。お馴染みとなった「花を育てながら子どもたちの安全を見守ってください」という趣旨でパンジーの苗約 1,400 株を無料配布しました。

配布の後は、通学路のプランターへの植替えを行いました。桔梗が丘の3校区で合計 30 基のプランターが設置され、街の各所でプランターと「子どもをみんなで見守る花いっぱい」という啓発ステッカーを目にするようになりました。

夏に続いて秋の配布に際しても、皆さんから温かいご寄付を 20,208 円頂戴したことに感謝いたします。ありがとうございました。今後とも子どもたちの安全見守りをよろしく願います。



花の苗無料配布に来ていただいた地域住民の皆さん

また今回、運営面で特筆すべきは、実行委員の子どもたち（＝卒業生）が 5 人も手伝いに来てくれたことです。皆自分自身が小学生だった頃の楽しい思い出を後輩たちにと恩返ししてくれました。

■ 秦先生の食育トークショー

2月1日（土）開催の3学期週末課外授業は、「親子でクッキング&秦先生の食育トークショー」でした。

この日は、あそびっくす in 東小としては珍しく学校を離れ、名張近鉄ガスさんの調理実習室で開催しました。



親子5組の参加を得、設備の整った会場で秦先生の軽妙なトークを交えた実習を楽しみました。

メニューは、「こぶたの豚まん」と「豚肉とキャベツのスープ」。参加者は親子で協力しながら和気あいあいと調理を進めていました。秦先生曰く、このように親子でおしゃべりしながら一緒に料理を作ることがとっても大切。作り方のコツや、素材のこと、道具の扱いなど、どれをとっても調理の時間中すべてが「食育」という感じでした。

出来上がった豚まんのスープを皆でいただきましたが、さすが秦先生のレシピですね、もう最高に美味しかったです。豚まんの表情もそれぞれ違って見ただけで楽しくなりました。



親子で協力して調理



蒸し上がった豚まん

■ 子どもたちと地域の絆づくり事業

今年度は、桔梗が丘地域ビジョンの事業として桔梗が丘小学校と桔梗が丘南小学校でも同様の組織を立ち上げました。立ち上げに際しては東小の歴史を皆に紹介し、苦労した点や東小校区の皆さんがとても協力してくださっていることを説明し、理解と賛同を得ることができました。

また、この3つの小学校の組織を繋ぐ役目として、「桔梗が丘子どもたちと地域の絆づくり事業連絡協議会」を立ち上げ、3校合同事業の企画運営やお互いの情報交換の場として運営されることになりました。今年度はその皮切りに、名張市の「ゆめづくり協働事業」として秋の通学路花いっぱい運動を行いました。

◆ 日本PTA全国研究大会

第61回全国PTA研究大会 みえ大会 第二分科会が8月23日（金）ADSホールで開催されました。

シンクロナイズドスイミングコーチの井村雅代さんによる「子どもの才能の伸ばし方」と題した基調講演に始まり、名張市から、MIK 運動、つつじが丘小学校PTA、あそびっくす in 東小の3つの事例報告がなされました。

あそびっくす in 東小が生まれた背景、狙い、今までやってきたことからエピソードをいくつか紹介し、全国から集まったPTA関係者に聞いていただくことができました。発表の後には、委員長がパネルディスカッ



ションのパネラーの一人として再び登場し、アドバンスコープでおなじみの野上アナウンサーの進行で、井村さんや他のパネラーとともに子育てについて楽しく討議してきました。

並行して、会場 2 階ロビーにあそびっくす in 東小の展示コーナーを設け、今までの体験講座で製作した作品を展示するとともに、大型モニターでスライドショーを常時上映しました。ここには多くの方が立ち寄り、話をすることができました。そんな皆さんから一番注目を浴びたのは、なんと「光る泥だんご」で、単純だけれども奥が深い泥だんごを皆さんよくご存じでした。さすが PTA 関係者でした。

この大会では、事前に準備したあそびっくす in 東小の活動紹介冊子 (A5 版 30 ページ) を参加者全員 (約 600 名) に配布しました。その後、東小の教職員と保護者の皆さん全員にも配布しました。(もう少し残部がありますので興味をお持ちの方はお問い合わせください。)



ADS ホール舞台上でプレゼンテーション中の委員長

● 子どもの才能の伸ばし方

ここで井村先生のお話の一部を紹介しましょう。

最近の親は子どものマネージャーと化している。あまりにもいろいろなことをやり過ぎ。子どもが歩いているときに石があったらそれを取り除くなど大きなお世話である。

子どもに自分が出来なかったことを託す親がいるが、それは子どもにとっては大きな迷惑である。失敗をさせないようにさせないようにしている。期待し過ぎである。

「成功と失敗」

成功と失敗は 50 対 50 なので失敗もある。失敗すればやり直せばいいだけのこと。成功したら階段をひとつ登り、失敗したら肥やしにしない。

「言葉について」

言われる言葉に本気度がないと子どもは聞かない。本気かどうかはどんな小さい子でもわかる。言葉に勢いが無かったら相手は聞かない。本気で関わらないと相手は変わらない。

「一番の話」

スポーツの世界は勝たなければならないが、シンクロで一番になったところでスポーツ全体の一番ではない。人間性の一番でもない。一番はたくさんある。子どもの一番を見つけてあげてください。優しさ一番。人の面倒を見る一番。何でもいい。いっぱいある。

「1mm の努力」

40cm 跳べた人に 3 か月後に 50cm 跳べと目標を定める。どうするかというと、40cm 跳べた翌日に 40cm1mm を跳ぶように言う。目標は、かなえられる日々の目標を設定することが大切。明後日は 40cm2mm 跳べる。そして 100 日後には 10cm 高く跳べるようになるのである。

1mm の努力の大切さを選手はわかってくれた。

「心の才能が大事」

うまくいかなかった時に努力が足りなかった、もっと努力しようと思える人、出来るようになる方法を考えられる人になることが大事。それが心の才能である。

「親の役割」

子どもが失敗したとき、うまくいかないとき、はげますこと。そんな失敗誰でもやるんだよ。

「信じる」

親が人を信じないと子は人を信じない。

「一流」

三流は道に流される。二流は道を選ぶ。一流は道を創る。

◆ さなぎの殻を破る男

昔、ある男が、さなぎを見ていた。もうすぐ蝶が出てくる直前でさなぎはぶるぶると震えている。しかし、中々、蝶は出てくることができない。そこで、男はさなぎをかわいそうに思い、はさみでさなぎに切れ目を入れて、出てくるのを手伝ってあげることにした。男の助けもあり、蝶はさなぎから出てくることに成功した。しかし、元氣よく飛び立つことはなく、そのまますぐに死んでしまったのだ。さなぎから蝶が出てくるとき、蝶は強い力でさなぎを破る。そのときに、全身に栄養分が行き渡り、生きて行く強い力が行き渡る。しかし、自らの力でさなぎを破らなかった蝶は、栄養分が全身に行き渡ることがなかった。そのため、死んでしまったのである。

(小倉広メールマガジンより)

あそびっくす in 東小の理念に近いので紹介しました。

▼ 長〜い編集後記

- 1) 1 学期週末課外授業の終了後、みんなで教室の掃除をしようとしたときのことで、子どもたちだけでは掃除が始まりませんでした。学校の授業と違うので戸惑ったのか、「教室の前から順に後ろに向かってほうきで掃ってください」と説明しなければなりません。掃除が好きな子はいないと思いますが、なぜ掃除をしなければならぬか、掃除をするとどんないいことがあるか、そして正しいやり方はどうやるのか。一度お話ししなければと思いました。
- 2) 3 学期に食育トークショーを開催した背景は、昨今の子どもたちを取り巻く食環境の乱れです。巷にはジャンクフードが溢れ、どこの国のだれがどんなプロセスで作ったかわからない食材を使った同じようなメニューがレストランに並びます。今や日本に昔から伝わる旬の食材を使った安全で健康的な食事をなかなか目にするのができなくなりました。このままでは、未来を担う子どもたちの健康が心配でなりません。そこで、子どもたちにとって一番身近な家庭での食生活を保護者の皆さんに楽しみながら考えてもらおうと企画しました。折しも名張市では、昨年「名張ばりばり食育条例」が制定され、その基本理念に「家庭における食育が、健全な食習慣を確立するうえで重要な役割を担い、子どもたちに対し心身の成長及び健康並びに人格形成に大きな影響を及ぼす。」と謳われています。
- 3) 例年あそびっくす通信は年 2 回発行していますが、本年度は、あそびっくす in 東小以外の色々なことに奔走していたこともあり、年度末 1 回の発行となってしまったことをお詫びします。各事業終了後速やかに地域の皆様にご報告できるよう今後も努力してまいります。
- 4) ブログにも情報を載せていますので、下記 URL を覗いてみてください。そしてぜひ「拍手ボタン」を。
<http://asobixtuku.blog.fc2.com/>
- 5) 地域の皆様、保護者の皆様、教職員の皆様、本年度関わっていただいたすべての皆様に感謝します。ありがとうございました。また来年度もよろしくお願い致します。